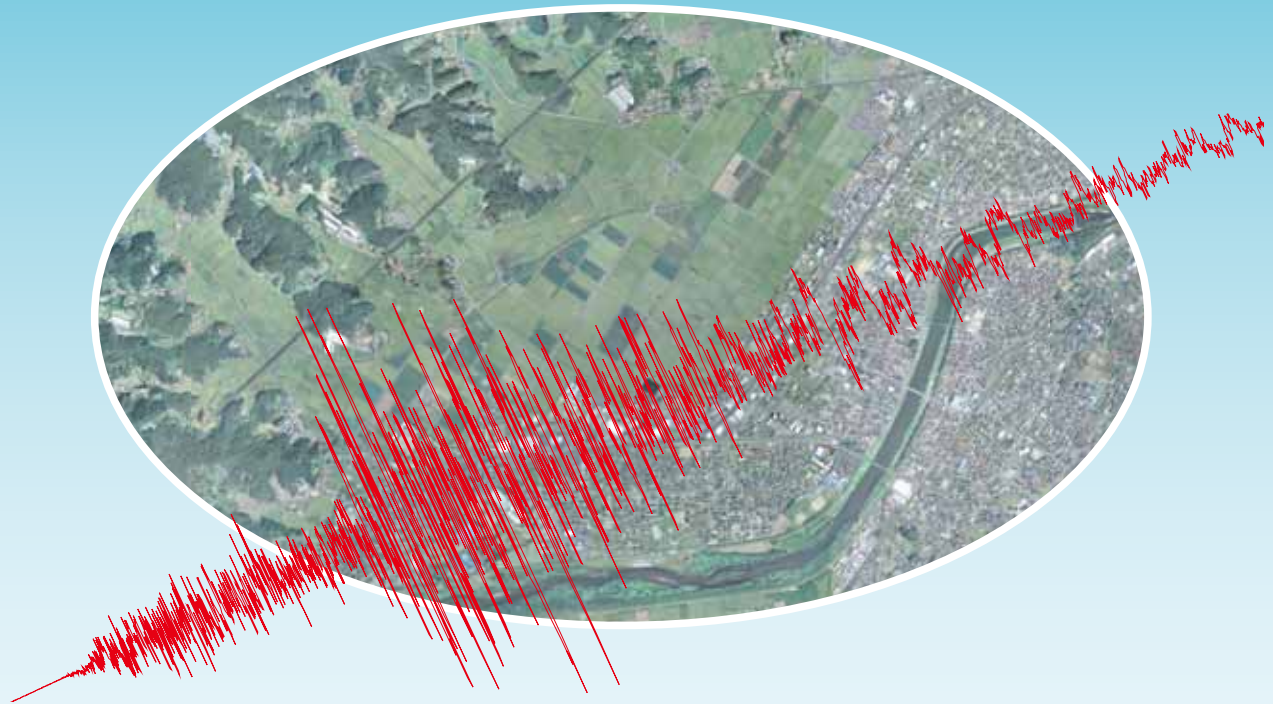


地震防災パンフレット

保存版

地震から大切な生命と財産を守るために



このパンフレットの目的

東北地方は地震の多い地域といわれ、県内でも、平成 20 年岩手・宮城内陸地震をはじめ、たびたび大きな被害を受けています。また、近い将来発生が確実視される宮城県沖地震により、これまで以上の被害も予想されます。

わたしたちの住む大河原町も地震災害と無縁ではられません。災害を最小限に防ぐには、町民一人ひとりが日ごろから地震に「備える」ことが大切です。

そこで、地震についての正しい知識を深め、災害に備えていただくために、このパンフレットを作成しました。ぜひ、ご家庭や地域、職場で活用してください。

目次

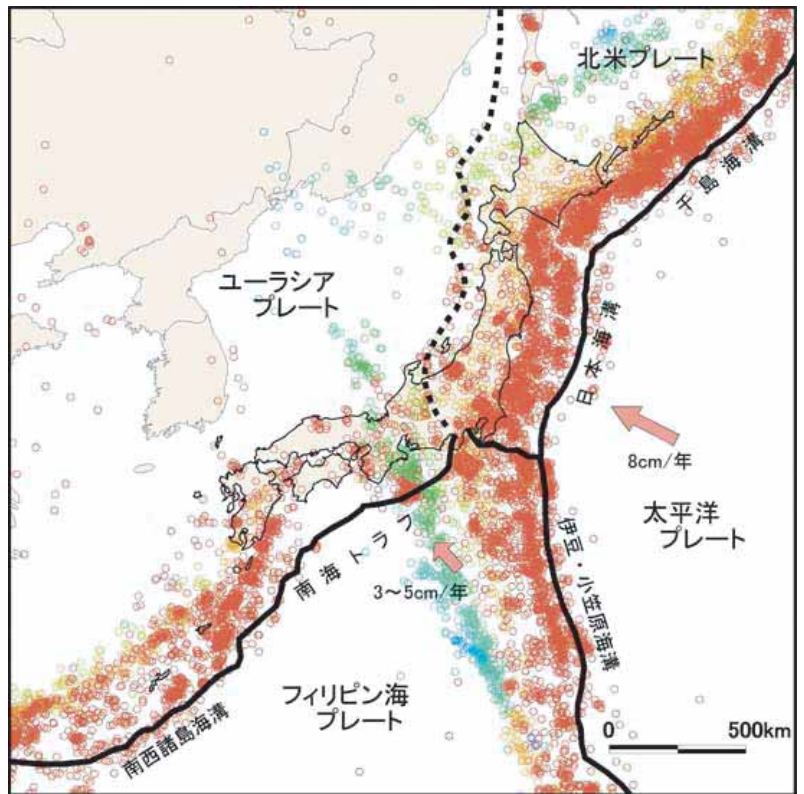
I 地震の知識	1
地震はどこで起こる／震度とは／地震に備える／地震が起こったとき	
II 地域の防災	4
自主防災組織について / 避難場所を確かめましょう	
III 地震が起こる前に	5
耐震診断・耐震改修／家具などの固定／ブロック塀などの地震対策	
IV もしも大きな地震が起こったら	7
大河原町で想定される地震 / 揺れやすさマップ／地域の危険度マップ わが家の連絡方法／災害時の安否確認方法	

地震はどこで起こる？

東北地方は、世界でも屈指の地震活動が活発な地域で、頻繁に地震が起こるとともに、また大地震も多い地域です。その理由は、太平洋プレートやユーラシアプレートなどのプレート同士が衝突し、その押し合う動きによって、大地に力が働いているからです。この力が特にたまりやすい日本海溝沿いや内陸の活断層などで大きな地震が発生しています。

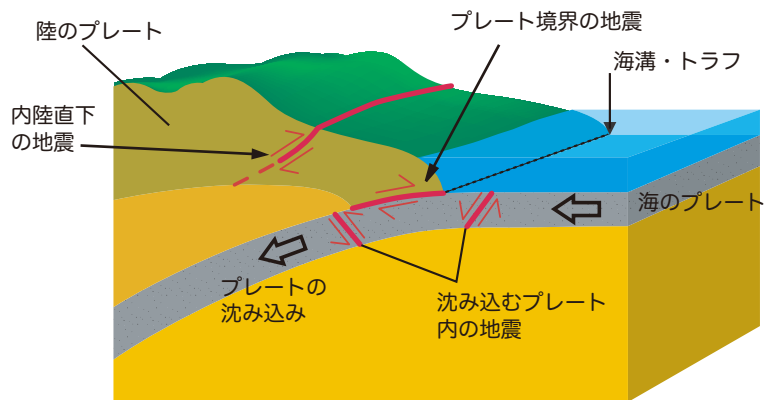
●海溝沿いの地震：プレートとプレートの境界で発生する地震や沈み込む海のプレート内部の地震で、時によって巨大な地震となることがあります。昭和53年宮城県沖地震もそのひとつで、およそ50年ごとに繰り返して発生するといわれています。

●内陸直下の地震：プレートの運動によって、内陸でも地震が起こることがあります。長町ー利府断層などの「活断層」は、これまで数百年から数千年おきに何度も繰り返し地震が起こった痕跡だといわれています。一方、平成20年岩手・宮城内陸地震は、これまでよく知られていなかった断層によると見られており、全国どこでも同じような規模の地震が起こる可能性も懸念されています。



震央の深さ 0 300 600km

震央(1995年～2005年、M4以上)は、米国地質調査所(USGS)による。矢印は、ユーラシアプレートに対する太平洋プレートと、フィリピン海プレートの相対的な進行方向と速さを示しています。太い実線は、プレート境界、破線は不明瞭なプレート境界を示します。

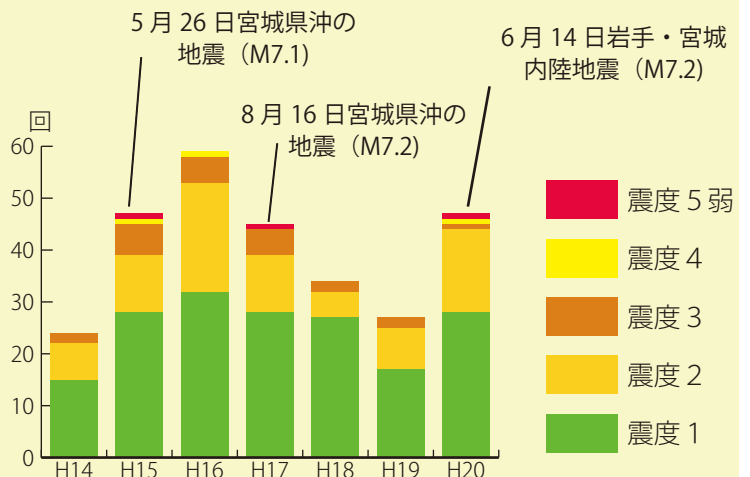


赤い矢印は、断層運動を示しています。(文部科学省「地震がわかる」から引用)

ワンポイント

大河原町での有感地震回数

町では、年にどのくらいの有感地震を観測しているのでしょうか？ 気象庁によれば、町役場に観測点ができ平成14年以降、年間おおよそ40回程度です。その半数は震度1ですが、数年に1度の割合で、震度5弱(平成15年、17年および20年の3回)の強い揺れが観測されています。



大河原町での有感地震回数 (気象庁による)

平成20年は6月28日現在までの回数

震度とは？

震度は、地震を感じたときの揺れの強さを10段階で表したもので、計測震度計によって測られたデータに基づいて、気象庁が決定・発表しています。

震度 0		人は揺れを感じない。	震度 5弱		多くの人が身の安全を凶ろうとする。一部の人は行動に支障を感じる。家具が移動することがある。窓ガラスが割れて落ち、壁や柱が破損するものがある。
震度 1		屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。	震度 5強		恐怖を感じる。多くの人が行動に支障を感じる。タンスなど重い家具が倒れる。ドアが開かない、ブロック塀、自動販売機、墓石など倒れるものがある。自動車の運転が困難になる。耐震性の低い建物では、壁や柱が破損したり、傾いたりすることがある。
震度 2		屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。	震度 6弱		立っていることが困難になる。重い家具の多くが移動、転倒する。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。耐震性の低い建物では、倒壊するものがある。
震度 3		屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。	震度 6強		立っていることができず、はわないと動くことができない。耐震性の低い建物では、倒壊するものが多い。耐震性の高い建物でも壁や柱がかなり破損するものがある。
震度 4		かなりの恐怖感があり一部の人は身の安全を凶ろうとする。眠っている人のほとんどが目を覚ます。すわりの悪い置物が倒れることがある。自動車を運転しているときに、揺れに気づく人がいる。	震度 7		揺れにほんろうされ、自分の意思では行動できない。ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い建物でも、傾いたり、大きく破損するものがある。

気象庁「震度階級関連解説表」を参考に作成

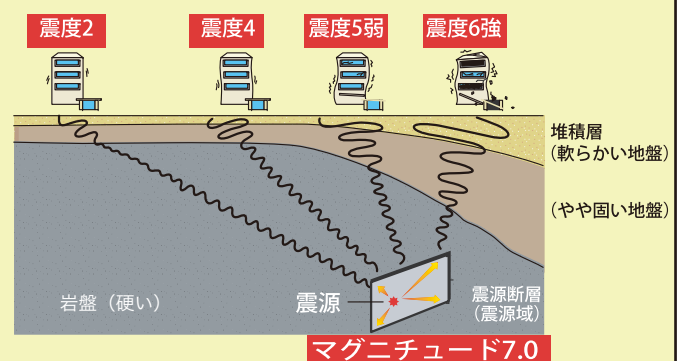
ワンポイント

震度とマグニチュード

「震度」とは揺れの強さ、「マグニチュード (M)」とは地震そのものの大きさを表します。電球で例えれば、震度は「手元の明るさ」ですが、マグニチュードは「電球そのものの明るさ (ワット数)」に相当します。

マグニチュードは1つですが、それぞれの場所の揺れの大きさを示す震度は、場所によって異なります。右の図は震源に近く、地盤が軟らかい場所ほど大きく揺れることを示しています。

同じ地震でもところによって揺れが違う



地震に備える

1. わが家の安全チェック

詳しくは5ページ・6ページ参照



- 耐震診断・耐震改修が重要です
- 家具などを固定しましょう
- ブロック塀・石塀、灯籠などは大丈夫ですか

<やってみよう 簡単な耐震診断>

「誰でもできるわが家の耐震診断シート」(財日本建築防災協会)で簡単な耐震診断ができます。診断シートについてのお問い合わせは、地域整備課建築係 53-2445 まで

2. 地域の安全チェック

- 避難所の場所を確かめましょう
- 避難所まで歩いてみましょう
いざというとき、安全に通れますか？
- 避難マップを作ってみましょう
- 地域の防災訓練に参加してみましょう



3. 家族の防災会議を開きましょう



- 非常時の集合場所を決めておきましょう
- 連絡先を決めましょう
- 安否確認の方法を確かめましょう

4. 非常持出品を備えましょう

- 飲料水・非常食品
- 医薬品・衛生用品類(お薬手帳も忘れずに)
- ラジオ、懐中電灯、乾電池
- 現金・通帳・印鑑、貴重品
- 衣類



地震が起こったとき



1. わが身と家族の安全

丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠し、頭を保護しましょう



2. グラツときたら、火の始末

小さな地震でも火を消す習慣をつけましょう。タイミングを見て、無理せず、ヤケドに注意しましょう



3. あわてて、外に飛び出さない

周囲の状況をよく確かめてから落ち着いて行動しましょう



4. 戸や窓を開けて、出口の確保

地震でドアやサッシがゆがみ、屋内に閉じ込められることがあります。戸などを開けて出口を確保しましょう



5. 運転中の自動車は、道路の左側に寄せて停車

カーラジオの情報により行動しましょう



6. 山崩れ、崖崩れに注意

(海岸にいたら、津波に注意)

警戒区域では、安全を確認してすばやく行動しましょう



7. 避難は徒歩で、持ち物は最小限に

車での避難は、混乱のもとです。必要最小限の持ち物だけにしましょう



8. 正確な情報で行動する

災害時は、うわさや憶測などで惑わされやすくなっています。役場や報道機関などからの確かな情報で行動しましょう

自主防災組織について

自主防災組織は、地域での減災と災害時の応急の対応に住民が協力して立ち向かうためには、なくてはならない組織です。自主防災組織を中心に地域で助け合いましょう。

●役割分担しよう

一人では限られています
班を作るなどして、役割を分担しましょう

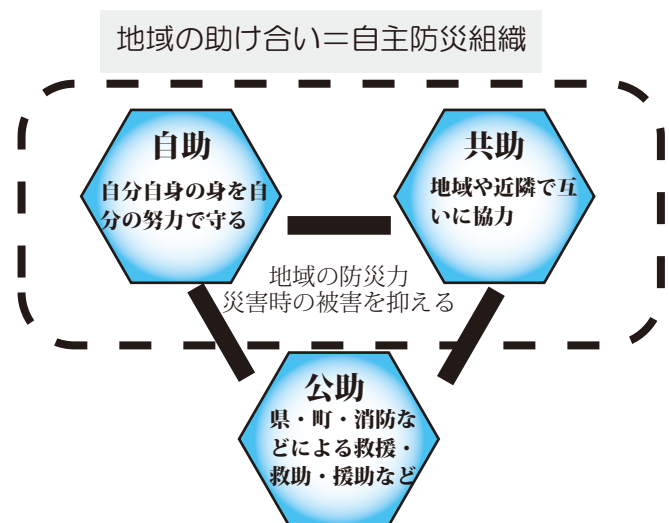
●日常の活動が大切です

繰り返しの防災訓練が役立ちます
図上訓練、避難マップづくりも大事な訓練
できるところから始めましょう

●他の防災組織と連携しましょう

役場（防災担当）や消防、そして近隣の自主防災組織とも協力し、連携した活動が大切です

●災害時要援護者の救護や家屋に取り残されている人がいないかを確認します。自主防災組織の活動にしたがって、行動しましょう



避難場所を確かめましょう



一時避難場所

各自主防災組織で決めている、身の安全が確保できる近隣の広場などです。

町の指定避難所

詳しくは9ページ参照

災害によって通常の生活を継続することが困難な場合などに避難できる施設で、町内に11か所あります。

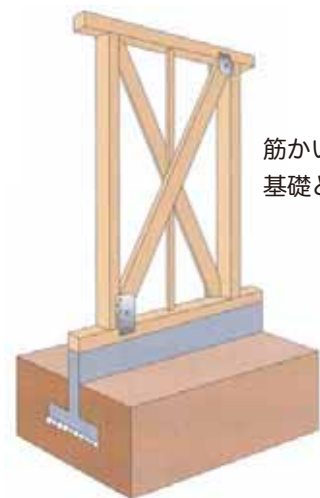
耐震診断・耐震改修

昭和 56 年の建築基準法改正によって建物の耐震基準が強化されました。改正前の基準は、今の基準と比べると、ずいぶん地震に弱いものでした。平成 7 年の阪神・淡路大震災では、多くのかたが住宅の中で亡くなっています。特に、昭和 56 年以前の基準で建てられた建物・住宅の被害が甚大でした。昭和 56 年以前の基準で建てられた建物（特に木造住宅）は、地震に対する強さが、現在どの程度となっているか耐震診断を受け、地震に大丈夫かどうかを確かめてみるのが大切です。

- まず、耐震診断を受けてみましょう。
- 補強が必要と診断された住宅は、耐震改修工事を行いましょう。
 - * 診断の結果によっては、費用の比較により、建て替えたほうがよい場合もあります。

補修の方法

- 壁の補強 : 壁に筋かいを入れたり、構造用合板を張って、建物が地震に抵抗する力を増やします。
- 基礎の補強 : 鉄筋の入っていない基礎に添えて鉄筋を入れた基礎を新しく作るなど丈夫な基礎にします。
- 接合部の補強 : 柱、はり、筋かいなどの接合部は、金物で十分に補強します。
- 腐食部分の改修 : 雨漏り、湿気、シロアリなどにより腐食した部分の材料を交換し、構造上の欠点をなくします。
- 屋根の軽量化 : 屋根の軽量化を図ります。屋根が重いと建物にかかる地震力が大きくなるため、壁の強度などをさらに高めることが必要になります。



筋かいや金具で補強
基礎ともしっかりと

基礎部の大きなひび割れは補修する

- 町では、耐震診断を行うかた、さらに診断の結果に基づいて耐震改修工事を行う場合で、一定の条件を満たすかたを対象に助成事業を行っています。
 - 木造住宅耐震診断助成事業
 - 対象とする住宅：昭和 56 年 5 月 31 日以前に着工した戸建木造住宅
 - 助成内容（平成 20 年度現在）：診断費用の助成（自己負担は 8,000 円。ただし住宅の面積が 200 m²を超えると増額になります。）
 - 避難弱者木造住宅耐震改修工事助成事業
 - 対象とする住宅：耐震診断の結果を受けて改修を行う住宅で、高齢者のみの世帯及び身体障害者、要介護者等が居住する住宅
 - 助成内容（平成 20 年度現在）：工事費の 1/3、上限 30 万円
- 一定の耐震改修工事を行った場合、その住宅に関わる固定資産税の税額が減額される場合があります。

耐震診断助成事業、耐震改修工事助成事業などについてのお問い合わせは、

地域整備課 建築係 53-2445

固定資産税の減額などについてのお問い合わせは、

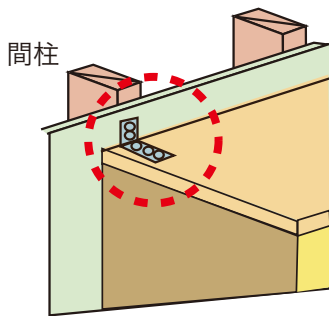
税務課 固定資産税係 53-2113

* 町では、大河原町耐震改修促進計画をホームページで公表していますので併せてご覧ください。

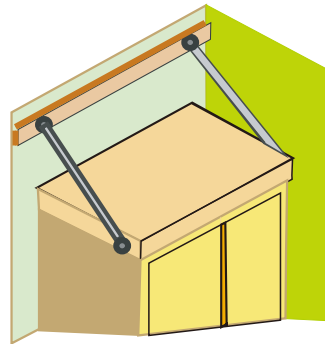
家具などの固定

平成16年新潟県中越地震においての負傷者の約5割は、ガラスの飛散や家具類の転倒・落下によるといわれています。家具や家電製品の地震対策としては、次のようなものがあります。

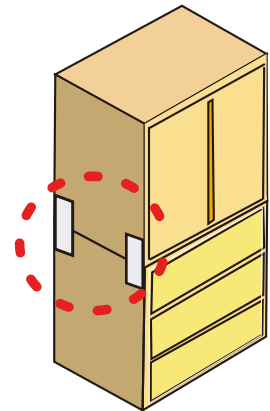
- 固定器具を用いて家具や家電製品を固定する。
- 食器などの収納物が飛び出さないように、扉の開閉を防ぐ器具を取り付ける。
- 睡眠を取る場所や家の外に出るための避難経路の近くに、大きな家具や家電製品を置かない。
- 家具の中には、下に重いもの、上に軽いものを置く。
- 食器棚などのガラス面には飛散防止フィルムを張る。



L字金具で間柱に直接固定する



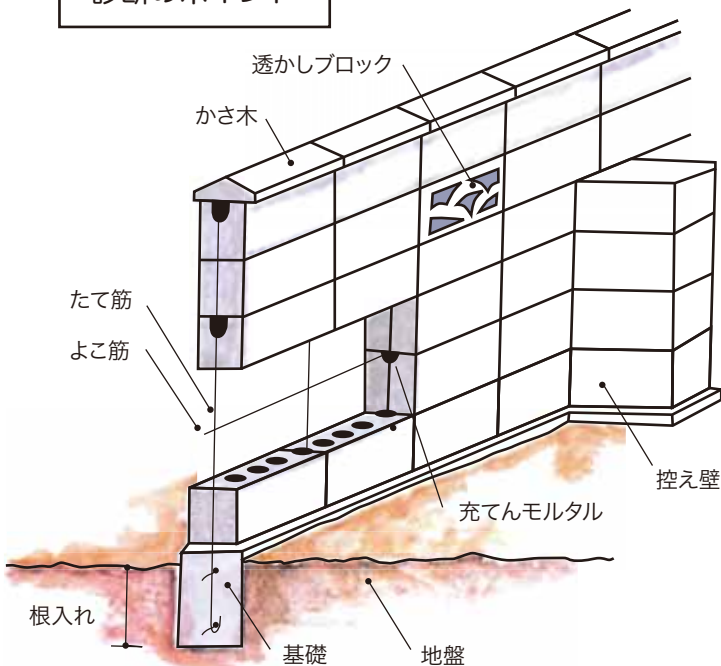
鴨居などから家具両側の側板部に、ベルトやチェーンでつる



積み重ね家具の場合は、プレート金具で上下を連結する

ブロック塀などの地震対策

診断のポイント



昭和53年宮城県沖地震では、ブロック塀の倒壊により11人のかたが犠牲となりました。大河原町でも石碑が転倒し1人が亡くなっています。

道路（特に通学路）に面しているブロック塀や石塀が倒壊した場合、学童をはじめ通行している人に大きな被害を与える恐れがあります。所有するブロック塀・石塀の安全性の点検を行い、必要に応じて撤去や倒壊防止対策を行ってください。

(社)全国建築コンクリートブロック工業会が発行している「ブロック塀の診断カルテ」で、ご自宅のブロック塀の安全性を確認してみませんか？

診断カルテ、ブロック塀・石塀などの安全対策についてのお問い合わせは、

地域整備課 建築係 53-2445

大河原町で想定される地震

大河原町に影響のある地震として、次の4通りを想定しています。

①「宮城県沖地震（単独型）」(M7.6)

宮城県沖の日本海溝沿いのプレート境界を震源域とする地震です。昭和53年宮城県沖地震と同様の場所・規模と考えています。

②「宮城県沖地震（連動型）」(M8)

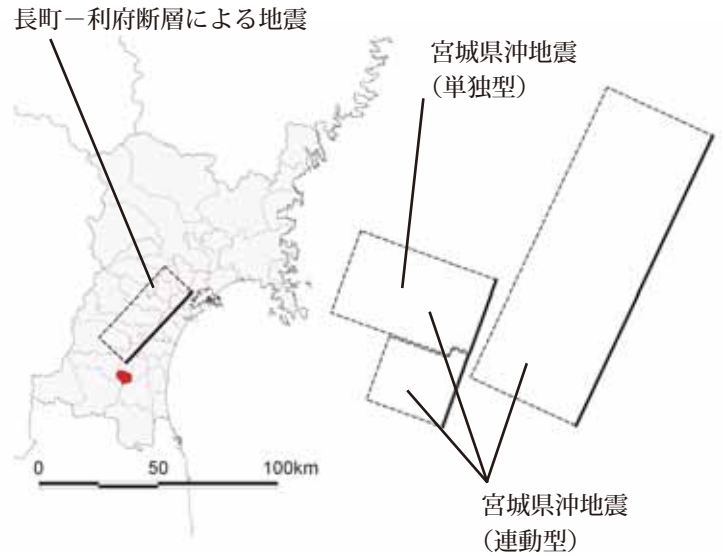
宮城県沖の日本海溝沿いのプレート境界を震源域とし、単独型の震源域を含む広い領域で起こるとされている地震です。将来の宮城県沖地震でも起こる可能性があるといわれています。

③「長町 - 利府断層による地震」(M7.1)

仙台市から利府町にかけて、ほぼ南北に延びる長さ約40kmの活断層です。この断層は、約3000年に1度程度の割合で繰り返し地震を起こしているとされています。

④「どこでも起こりうる直下の地震」(M6.9)

大河原町の直下には活断層は知られていませんが、平成15年宮城県北部地震のような地震が直下で起こる可能性も考えられますので、防災上の可能性としてマグニチュード6.9の地震を想定しました。



地震の起こる場所や大きさなど発生の仕方は、平成15年宮城県第三次地震被害想定調査によっています。

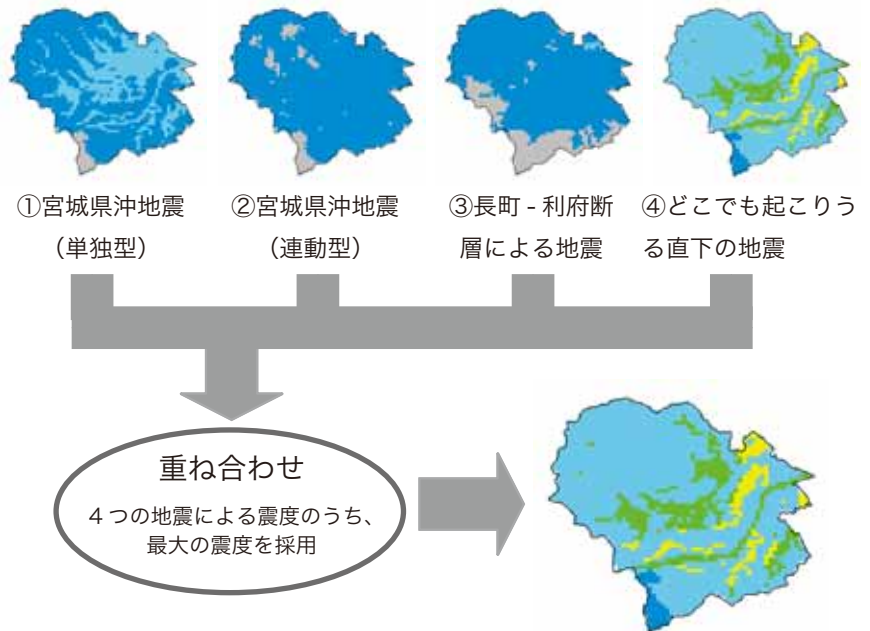
A. 揺れやすさ（震度）マップ

揺れやすさマップとは、大河原町の全域を約100mのメッシュ（マス目）に分割し、そのマス目ごとに、上記の①～④の想定地震について計算した震度のなかで、最大の震度を表したものです。

つまり、自分が住んでいる場所で可能性のある最大の揺れの強さを、震度ごとに色分けしたものとなります。

ただし、町全域が同時にこのような揺れの強さとなることを想定しているわけではありません。

揺れやすさマップ、および上記の①～④のそれぞれの想定地震による震度（揺れやすさ）マップは、大河原町のホームページで見ることができます（印刷可）。



A. 揺れやすさマップ

メッシュ毎の震度計算には、平成15年宮城県第三次地震被害想定調査結果データを活用しています。



大河原町地震防災マップ

■ 問い合わせ先：大河原町 地域整備課 TEL：53-2445

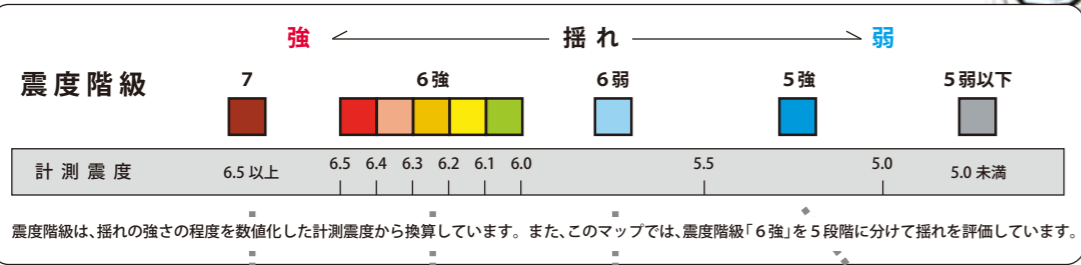
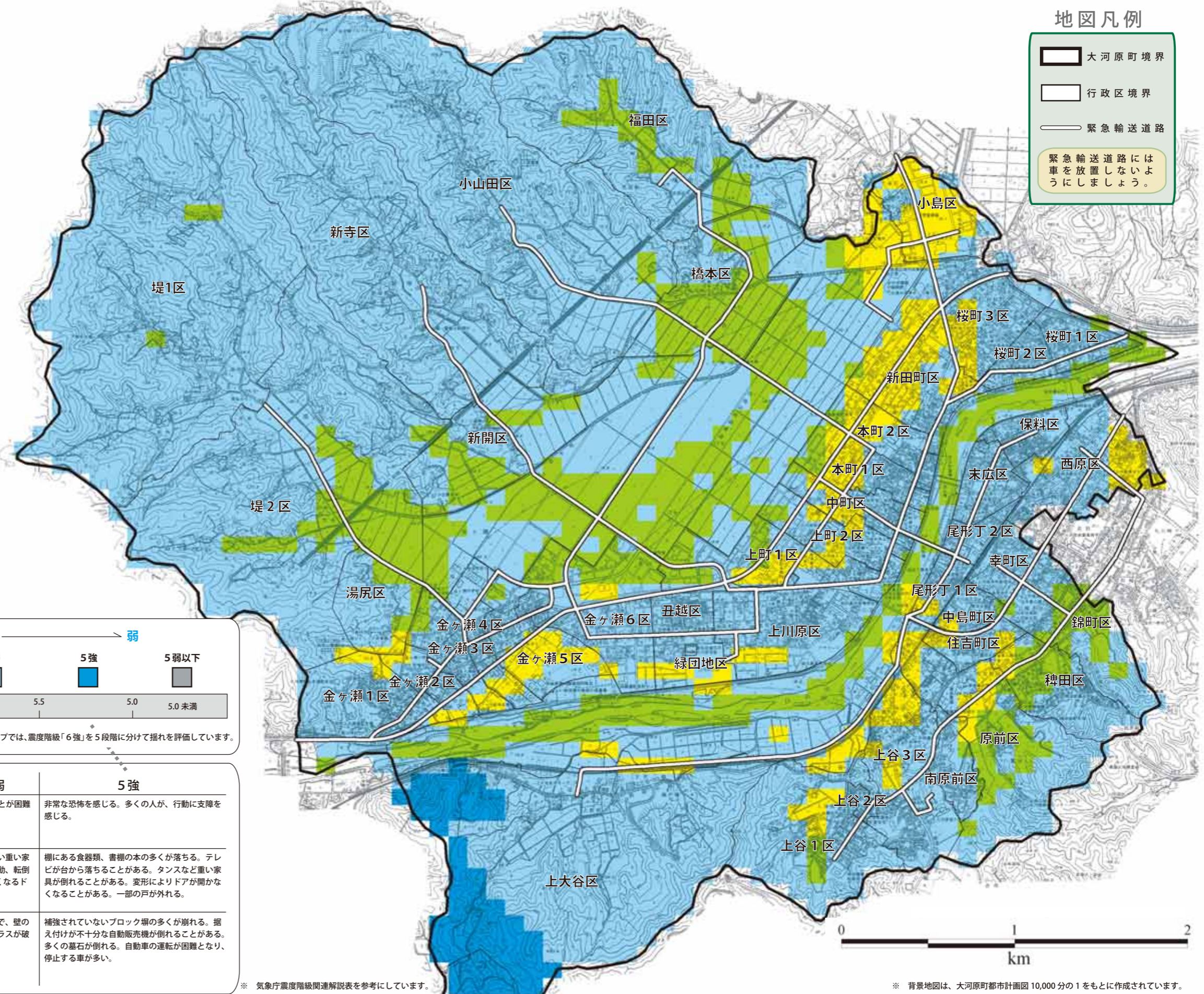
A 揺れやすさマップ

揺れやすさマップとは

- この「揺れやすさマップ」は、想定する4つの地震のうちの最大の震度の場合の揺れ（震度）を100メートルメッシュ毎に表示したものです。
- 想定する4つの地震とは、
 - ① 海溝型の地震：宮城県沖地震（単独型）
 - ② 海溝型の地震：宮城県沖地震（連動型）
 - ③ 内陸活断層による地震：長町-利府断層による地震
 - ④ どこでも起こりうる直下の地震：マグニチュード6.9の地震のことです。最大の震度は、これら4つの地震のうち、地域で最も大きな揺れとなる場合だけをまとめて、地図に表したものです。
- ただし、防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民のみなさんの防災活動に役立てていただくために作成したものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

地図凡例

- 大河原町境界
 - 行政区境界
 - 緊急輸送道路
- 緊急輸送道路には車を放置しないようにしましょう。



	7	6強	6弱	5強
人間	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	立っていることが困難になる。	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。
屋内の状況	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が外れて飛ぶことがある。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることもある。一部の戸が外れる。
屋外の状況	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据え付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。

※ 気象庁震度階級関連解説表を参考にしています。

※ 背景地図は、大河原町都市計画図 10,000 分の 1 をもとに作成されています。



大河原町地震防災マップ

■ 問い合わせ先：大河原町 地域整備課 TEL：53-2445

B 地域の危険度マップ

地域の危険度マップとは

- この「地域の危険度マップ」は、揺れやすさマップ（想定する4つの地震のうち最大の震度）において示された揺れ（震度）となった場合に、地盤の液状化の影響を含めてどの程度の建物被害（全半壊相当）が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。
- 想定する4つの地震は、
 - ① 海溝型の地震：宮城県沖地震（単独型）
 - ② 海溝型の地震：宮城県沖地震（連動型）
 - ③ 内陸活断層による地震：長町・利府断層による地震
 - ④ どこでも起こりうる直下の地震：マグニチュード6.9の地震のことです。最大の震度は、これら4つの地震のうち、地域で最も大きな揺れとなる場合だけをまとめて、地図に表示したものです。
- 地域の危険度は、この最大の震度となったときの木造建物の被害の程度を表しています。
- ただし、この危険度マップは、防災上の可能性として、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民のみさんの防災活動に役立てていただくために作成したものです。全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

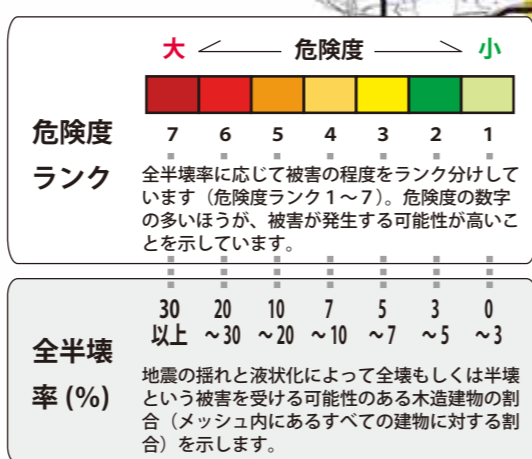
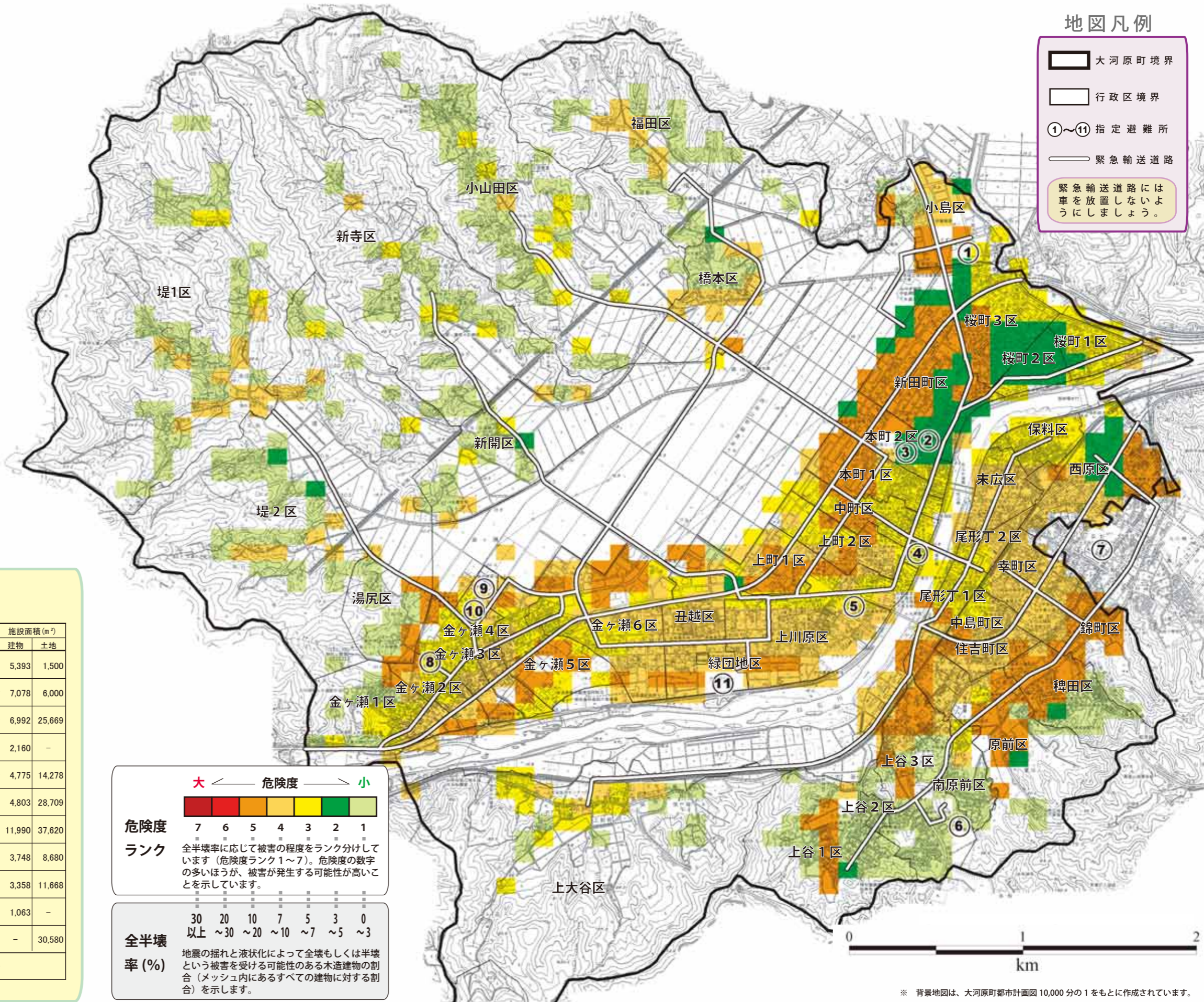
指定避難所一覧

番号	名称	所在地	行政区	収容可能人員		施設面積(m ²)	
				避難所	避難場所	建物	土地
①	総合体育館 53-1010	字小島1-7	小山田・橋本・福田・小島・桜町3区	1,000	700	5,393	1,500
②	大河原小学校 52-3401	字町100	中町・本町1・本町2	1,500	500	7,078	6,000
③	大河原中学校 52-3501	字東1	新田町・桜町1・桜町2	3,000	500	6,992	25,669
④	大河原中央公民館 53-4050	字町196	上町2	300	300	2,160	-
⑤	柴田農林高等学校 53-1049	字上川原7-2	上町1・上川原・丑越・緑団地	0	500	4,775	14,278
⑥	大河原南小学校 53-4220	大谷字鷺沼入27-1	原前・南原前・上谷1,2,3・上大谷・住吉町・穂田	0	500	4,803	28,709
⑦	大河原商業高等学校 52-1064	大谷字西原前154	尾形丁1,2・末広・保料・西原・幸町・中島町・錦町	0	500	11,990	37,620
⑧	金ヶ瀬小学校 53-1366	金ヶ瀬字居掛21	金ヶ瀬1,2,3・湯尻・堤1	1,200	200	3,748	8,680
⑨	金ヶ瀬中学校 53-1369	金ヶ瀬字原74	金ヶ瀬4,5,6・堤2	1,000	200	3,358	11,668
⑩	金ヶ瀬公民館 52-6635	金ヶ瀬字原88	新開・新寺	100	100	1,063	-
⑪	大河原公園 53-8780	字緑町30	広域避難場所	500	-	-	30,580
計				19,500	4,000	15,500	

地図凡例

- 大河原町境界
- 行政区境界
- ①～⑪ 指定避難所
- 緊急輸送道路

緊急輸送道路には車を放置しないようにしましょう。



※ 背景地図は、大河原町都市計画図 10,000 分の 1 をもとに作成されています。

B. 地域の危険度（建物の被害予測）マップ

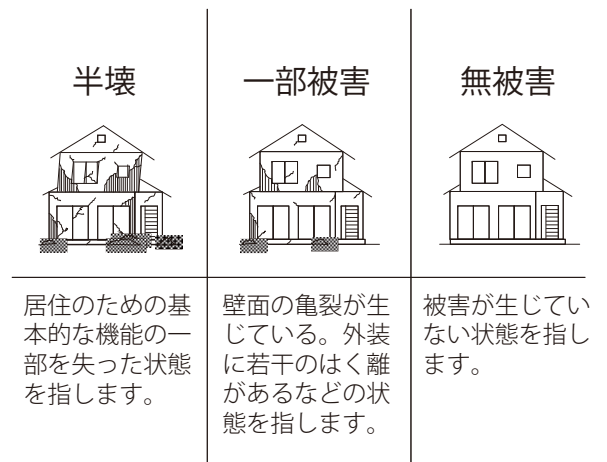
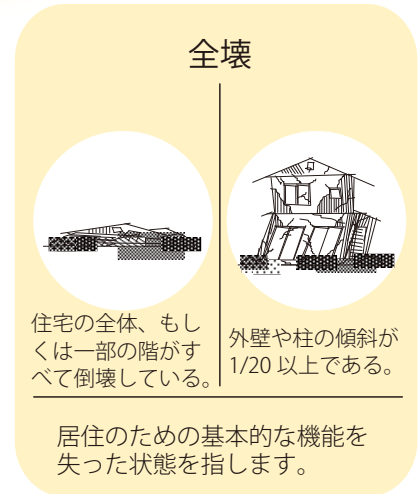
地域の危険度マップは、A. 揺れやすさマップで示した揺れとなった場合、建物の構造や建築年、そして地盤の液状化の影響を含めて、どの程度の建物被害が想定されるかを 100m マス目ごとに計算し、被害割合をランク別に色分けして示したものです。

ランク分けについては、マス目ごとに、すべての建物数のうち、全・半壊の被害を受けると予測される木造建物数の割合（％）で表わし、それに対応する危険度ランクで評価しています。例えば、危険度ランク5であれば、マス目にあるすべての建物の 10～20% にあたる木造建物に全・半壊程度の被害が想定されるということになります。

ただし、このマップは防災上の可能性として、最大の被害状況の目安を示したもので、全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

被害予測では、平成15年宮城県第三次被害想定調査時点の建物データを基として、それに最近のやや大規模な開発による補正をしています。

なお、危険度は固定的なものではなく、今後、新築・改築など町内の建物の状況が変わると、評価も異なり、ランクも変化する可能性があります。



内閣府「災害の被害認定基準」（平成13年6月）による



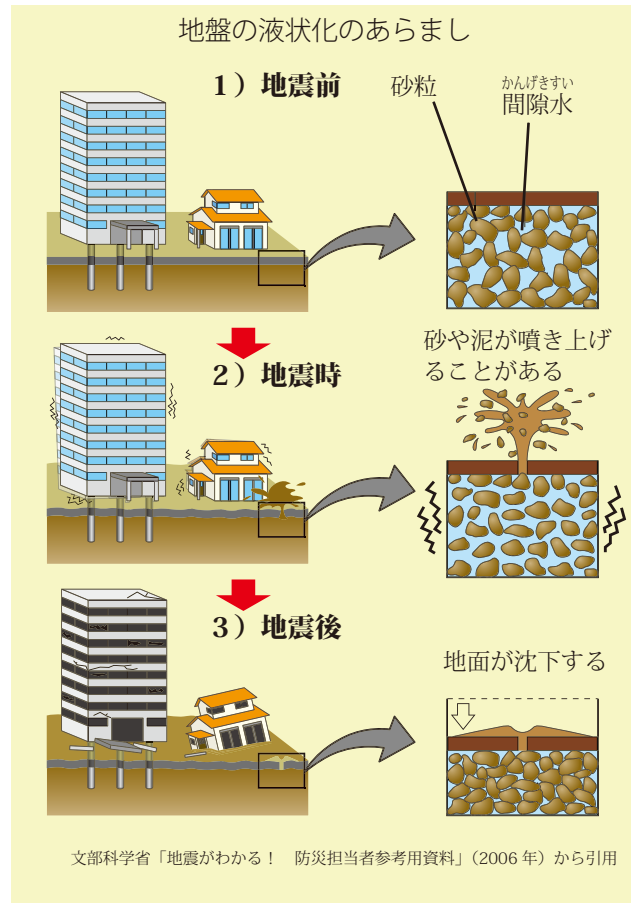
地盤の「液状化」

水分が多く含まれている地盤において、地震で強い揺れがあったとき、地中の土の粒の安定が崩れ、地盤が泥水のような状態になることを「液状化」といいます。

このような現象は、低地や埋立地など比較的軟らかい地盤で起こりやすいとされています。場合によっては、泥水が地表に噴き出たりします。

地盤の液状化が起こると、地盤の沈下、地中のマンホールの浮き上がり、建築物の傾き・倒壊などの被害が発生することがあります。

ここに示した地域の危険度マップ、および①～④のそれぞれの地震での揺れによる建物被害を想定した危険度マップについては、大原原町のホームページで見ることができます（印刷可）。



わが家の連絡方法

わが家の指定避難所

●それぞれが外出しているときなど、家族の集合場所を決めておきましょう。

集 合 場 所	
---------	--

●勤務先や通学先で定めている避難場所があれば、控えておきましょう。

家族の名前	避 難 場 所	メ モ

●電車で通勤・通学している場合など、移動の途中で大きな地震にあったときの、安否の確認方法

家族で話し合った方法：

災害時の安否確認方法

大きな地震のとき、一般の電話や携帯電話はつながりにくい状態になります。家族の安否は災害時伝言ダイヤルやメールを利用して確認しましょう。大規模災害が発生し、電話がつながりにくい状況となった時、県単位で各種の安否確認方法が利用できます。

音声で安否を伝える

まず、「171」
録音するとき



1 ▶ 0224-00-0000

「1」を押してから、自分の固定電話番号
聞くとき

2 ▶ 0224-00-0000

「2」を押してから、確かめたい相手の固定電話番号

災害時伝言ダイヤルの体験利用ができます。
詳しくは、お近くのNTTもしくは下記 URL へ。
<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/howto.html>

メールで安否を伝える

登録
↓
安否状況の選択
↓
コメントの入力

登録件数：10件
コメント：全角100文字
保存期間：事業者により異なる。

送信
同時に複数の相手にメール送信

使いかたなどの詳しいことは、携帯電話の使用説明書または各事業者のホームページなどでご確認ください。

このほか、パソコンから利用できる災害用ブロードバンド伝言板があります

本パンフレットの作成に当たり、以下の資料を参考とし、一部イラストなどを転載しています。
内閣府「減災の手引き」、地震防災マップ作成技術資料、文部科学省「地震がわかる」、気象庁「震度階級関連解説表」、消防庁「地震による家具の転倒を防ぐには」、東京都「私たちの東京を地震からまもろう」、宮城県「住まいの耐震改修 ポイントと施工事例」、宮城県建築物等地震対策推進協議会ワーキング資料
表紙の波形は、平成20年岩手・宮城内陸地震の際に（独）防災科学技術研究所 K-net（白石観測点）で記録された加速度記録の一部です。

この防災パンフレットに関する問合せ先
耐震診断、耐震改修工事、地震防災マップに関すること
地域整備課 53-2445
自主防災組織、指定避難所に関すること
総務課 53-2111